



学校だより

令和7年4月24日

5月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校

これからの「生き生き学ぶ姿」

副校長 石川 和之

新緑が目には鮮やかな季節になりました。休み時間になると日枝っ子たちは元気に校庭に飛び出し、遊びまわっています。入学から3週間が経ち、新入生も小学校にずいぶん慣れてきました。学校中を探検しながら、あちこちで元気な挨拶声が聞こえてきて、とっても微笑ましいです。

あらためて、メール配信システム「すぐーる」での学校だより等のお渡しへのご協力、誠にありがとうございます。出欠連絡だけでなく、体育の授業見学連絡や夏からは水泳参加の可否連絡も「すぐーる」で始まります。このように、スマホやパソコンといったGIGA端末の効果的な活用があちこちで見られますが、子どもたちの学習でもタブレット端末は大活躍しています。



先日、初めて理科の学習に取り組んでいる3年生が「春の生き物を探してみよう！」と、校庭の周りや中庭（育ちの森）を散策していました。様々な植物や小さな動物を見つける中で、じっくり観察するといろいろな色や形があることが気になってきて「細かく見てみたい！」という思いが膨らんでいました。左の写真のように虫眼鏡を使ってじっくり観察する子。右のようにタブレットを使って写真に撮り、親指と人差し指で拡大して見たい部分を

広げる子。子どもたちは虫眼鏡やタブレットといった調べる方法を自分で決めて、効果的に活用していました。

本物の花や葉にその場で触れながら、すぐに確認できる虫眼鏡。一方でタブレットは静止画で残せますので、後でじっくりと振り返り、気付いたことを落ち着いてカードにメモすることもできます。また、左下のように静止画を拡大して気付いたことを友達同士で気軽に共有し合うこともできます。



「お花の中に細長い棒みたいなものがたくさんあるよ。」
「本当だ。私が見つけたお花の中にも似たものがあったよ。」
最初は一人ひとりでじっくり観察していた子どもたちですが、教師が「気付いたことをお互いに話し合しましょう。」と指示を出さなくても、自然と子ども自身から対話が生まれます。そしてまた、「もう一回、本物のお花の中を見てみないと分からない！」と確認したくなり、この子たちはあらためて花のところに戻っていきました。

学校教育目標の「生き生き日枝っ子」を目指して、子ども自身から主体的に学習対象と関わり、学び合っていく姿。一人一台GIGA端末の効果的な活用を通してさらに高めていけたらと、試行錯誤しています。来月以降はさらに「なかま」の学習（生活科や総合的な学習の時間）でも、地域に出かけて学ぶ機会が増えていきます。保護者の皆様だけでなく地域の皆様にも、たくさんのご協力をいただけましたら幸いです。来月もどうぞよろしくお願いいたします。